

千葉市感染症発生動向調査情報

2026年 第5週 (1/26-2/1)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第5週	第4週	第3週	第2週
小児科	16	16	16	15
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	24
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段:報告患者数、下段:定点当たりの報告数

定点当たりの報告数:報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	1/26-2/1 第5週	1/19-1/25 第4週	1/12-1/18 第3週	1/5-1/11 第2週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.13	1 0.06	0 0.00	5 0.33
	咽頭結膜熱		0 0.00	1 0.06	1 0.06	0 0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		43 2.69	41 2.56	31 1.94	25 1.67
	感染性胃腸炎	↑	172 10.75	145 9.06	97 6.06	117 7.80
	水痘		6 0.38	12 0.75	3 0.19	9 0.60
	手足口病		1 0.06	0 0.00	2 0.13	0 0.00
	伝染性紅斑		3 0.19	5 0.31	2 0.13	1 0.07
	突発性発しん		5 0.31	2 0.13	12 0.75	6 0.40
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.07
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★★↑	1,076 41.38	503 19.35	266 10.23	208 8.32
	新型コロナウイルス感染症	↑	41 1.58	19 0.73	13 0.50	17 0.68
	急性呼吸器感染症	↑	2,232 85.85	1,535 59.04	1,024 39.38	1,126 46.92
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	0 0.00	2 0.40	2 0.40
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 1.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↑	2 2.00	0 0.00	1 1.00	1 1.00

※「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★★:「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★:「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

<増減>:マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓:「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 13 件

感染症		性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核	患者	男	20歳代	E型肝炎	男	50歳代
	無症状病原体保有者	男	60歳代		男	50歳代
	患者	女	80歳代	急性脳炎	男	10歳代
	患者	女	80歳代	侵襲性肺炎球菌感染症	男	70歳代
	患者	男	80歳代	梅毒	女	20歳代
腸管出血性大腸菌感染症		男	40歳代	百日咳	女	10歳代
—		—	—		男	20歳代

結核5件(10)、腸管出血性大腸菌感染症1件(1)、E型肝炎2件(2)、急性脳炎1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(3)、梅毒1件(3)、百日咳2件(13)の発生届があった。

※ ()内は2026年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

前週からほぼ変化なく2.69であった。年齢階級別の報告数は6歳が最多。

＜感染性胃腸炎＞

前週より増加し10.75となった。年齢階級別の報告数は10-14歳が最も多く、10歳未満では2歳が最多。

＜インフルエンザ＞

前週より増加し41.38となり、流行発生警報開始基準値(30.0)を上回った。過去5年の同時期と比べ最多。年代別の報告数は10歳代(合計)が最多でそのうち10-14歳が多く、10歳未満では9歳が最多。

＜新型コロナウイルス感染症＞

前週より増加し1.58となった。年代別の報告数は10歳未満(合計)が最も多く、そのうち8歳及び9歳が多かった。

＜急性呼吸器感染症＞

前週より増加し85.85となった。年代別の報告数は10歳未満(合計)が最も多く、そのうち5-9歳が多かった。

＜マイコプラズマ肺炎＞

前週より減少し0となった。

＜新型コロナウイルス感染症(入院)＞

前週より増加し2.00となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2026.pdf>

・インフルエンザ発生状況

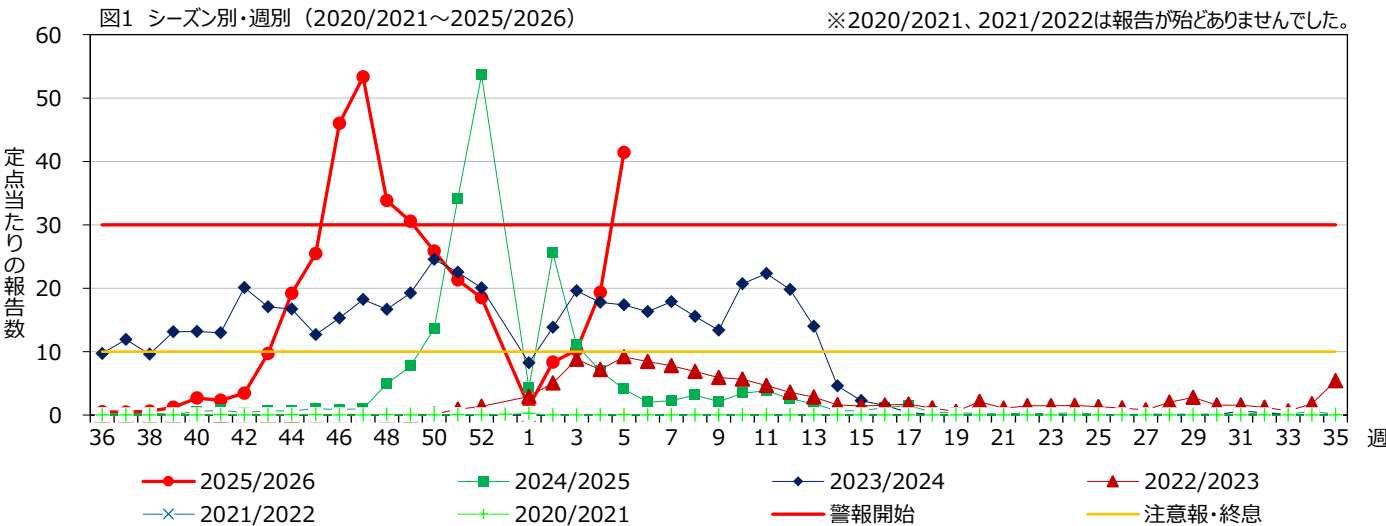
<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2026.pdf>

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国の第4週時点の定点当たりの報告数は16.64で、過去5年の同時期と比べると2024年の19.20、2021年の18.00に次いで多くなっています。都道府県別では、鹿児島県が35.19と最も多く、次いで宮崎県が29.36、大分県が28.90の順となっています。千葉県は23.80で、全国と比べると多くなっています。

インフルエンザは例年、第36週から翌年の第35週までを1シーズンとしています。千葉市では今シーズンの第46週(46.00)に流行発生警報開始基準値(30.0)を上回り、第47週(53.31)にピークを迎えた後減少し、第1週(1.38)に流行発生警報終息基準値(10.0)を下回りました。しかし、再び増加し、第3週(10.23)に流行発生注意報基準値を上回り、第5週(41.38)に流行発生警報開始基準値を上回りました。現行の調査が開始された1998年以降、同一シーズン内で2回流行発生警報開始基準値を上回ったのは2014/2015シーズンだけであることから、今後の流行状況の推移に注意が必要です(図1)。



2025年第36週から2026年第5週までの患者報告数は9,757件であり、そのうち男性が5,196件(53.3%)、女性が4,561件(46.7%)でした。年代別では0-9歳が5,121件(52.5%)と過半数を占め、次いで10-19歳が2,853件(29.2%)、20-29歳が433件(4.4%)の順となっています(図2)。また、0-9歳の年齢別では、7歳が713件(13.9%)と最も多く、次いで8歳が685件(13.4%)、6歳が679件(13.3%)の順となっています(図3)。

図2 性別・年代別報告数

(2025/2026第36週-第5週 n=9,757)

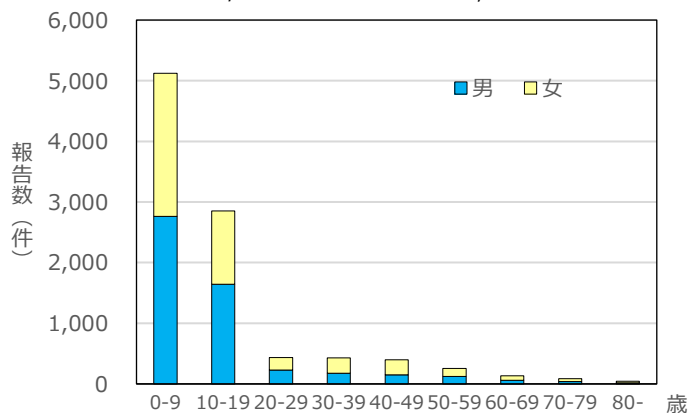
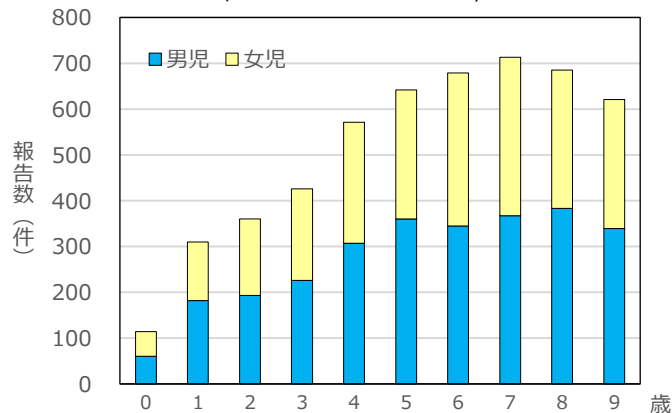


図3 (再掲) 性別・年齢別報告数 (0-9歳)

(2025/2026第36週-第5週 n=5,121)



定点医療機関の協力による9,757件の迅速診断結果は、A型が6,624件、B型が1,283件、A型及びB型が22件、A型またはB型が152件、未実施が1,675件、不明が1件となっています。第3週からB型(119件)がA型(95件)を上回っており、第5週はB型が1,076件中760件と70%以上を占めています。

インフルエンザをはじめとする感染症の予防には、「手洗い」「マスクの着用を含む咳(せき)エチケット」などが有効です。

特に、高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まるため注意が必要です。

また、インフルエンザワクチンには、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、罹患すると重症化する可能性の高い方には、これらの効果が高いと考えられています。

その他、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるといった対策をすることも有効です。

詳細は、以下のリンク先を参照してください。

令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症(ARI)総合対策(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>

令和7年度 急性呼吸器感染症(ARI)総合対策に関するQ&A(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2025.html

「高齢者インフルエンザ予防接種のご案内」(千葉市)

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/seisaku/elderly_influenza.html

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ確かな予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

<参考> 千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>